

やまとの名品

天理図書館

分類補註李太白詩卷之二十四

感遇

田越中秋懷

越水遶碧山周迴數千里乃是天鏡中分明

盡相似

本首四句云踏海思仲連遊山慕
康樂攀雲窮千峯弄水涉萬壑下同

愛此從冥搜永懷臨湍遊一為滄波客十見

紅葉秋觀濤壯天險望海令人愁路遐迫西

照歲晚悲東流何必探禹穴逝將歸蓬丘不

然五湖上亦可乘扁舟

日王羲之曰每
行山陰道上如鏡中



ぶんるいほちゅうりたいはくしぶんしゅう
分類補註李太白詩文集

李白著

万曆44(1616)年刊 14冊

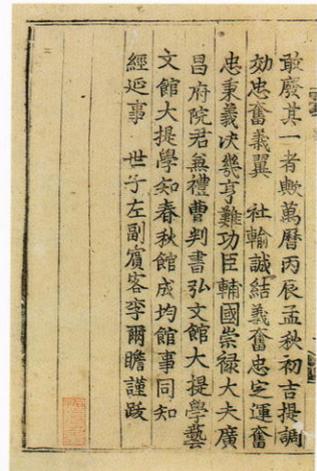
縦31.3cm 横20.2cm

雄大な気質、多様な変化を盛ることに卓越し、これを成しとげた李白（七〇一～七六二）字・太白号・酒仙翁、青蓮居士は唐時代の詩聖として広く世に知られている。

掲出本は朝鮮において一四三五年、銅活字の初鑄甲寅字で印刷された本を底本に、一六一六年、訓練都監字で印刷された書物である。訓練都監とは壬辰倭乱（豊臣秀吉の朝鮮出兵）以降、兵卒たちの軍事訓練を行うために設置された機関である。訓練の教材や、軍資金調達のための販売書物を印刷した。本書は李爾瞻（一五六〇～一六二三）の跋に「萬曆丙辰孟秋」とみえる。

巻頭右下には元々の朝鮮人の蔵書印があるが、上部の三行目には徳川御三卿の蔵書印「田安府芸臺印」がある。田安文庫は徳川幕府第八代将軍吉宗（一六八四～一七五二）の次男、宗武（一七一六～七二一）の旧蔵書。本丸から譲渡された漢籍を中心とする書籍を基礎に、自らも服飾、音楽等の学問に努め、その方面の書籍収集と蔵書の設営に尽力した。

吉宗からの譲渡について『有徳院殿御実紀』に、「享保十六年（一七三二）十二月二十四日此日御文庫に収められし和漢の



典籍数十種をわかちて。」と記述され、『田藩事実』にも本書名の記述があり意義深い。

元々は中国の書物が、朝鮮で做って出版・愛用され、日本で親から子へと引き継がれて、今日、本館に伝存する。こうした事実は、日中韓の現代人に何か大きなメッセージを投げかけているかのようである。

（天理図書館 南田尚紀）